

「単身赴任の始まり」

私は今、島根県益田市にいる。ホテル住まいを終えて、明誠高校から徒歩 10 分のところにあるマンションでの単身赴任生活が始まった。校長室からは益田川をはさみ七尾城跡があり、もう面影はないが城下町だったのどかな街並みが見える。1983 年 7 月には豪雨によってこの益田川が氾濫し、7000 棟以上が床上浸水し死者 100 人以上の被害があったと全日制校長が教えてくれた。そう言えばマンションの部屋には緊急事態を知らせる市と繋がっている小さなスピーカーが設置されていた。

学校内では、生徒と廊下ですれ違うと元気な挨拶が飛んでくる。笑顔も多い。学校までの川沿いを歩いているとすれ違う見知らぬ人が当たり前のように挨拶をしてくれる。コンビニまでの道のりを自宅の車庫で掃除をしている人に尋ねたら、わざわざ近くにあった段ボールの端を切って、地図のようなものを書いて説明してくれた。説明は本当に丁寧だった。私はその切れ端をもって、やさしさと親切に感謝しながら、2 キロ先のコンビニまでゆっくり歩いた。久しぶりに歩いた気がしたものだ。

益田市に来て何よりもうれしいのは、お魚が美味しいことだ。イオンのスーパーでお造りにできる「のどぐろ」が 1000 円未満で売っていた。近くの道の駅では、大阪では見たこともないおおきい「かわはぎ」もあった。もちろん味わった（笑）

明誠高校通信制課程は、全国に 30 以上のサポート校を展開している。西日本はもちろん、佐渡島にも北海道のオホーツクにも通信制の生徒がいる。大阪の生徒が寒いオホーツクへ体験留学するようなことができるかもしれない。生徒数も全日制に並ぶ勢いである。私の准校長生活が始まった。

単身赴任の本当のしんどさはきっとこれからだろう？

（丹羽 豊）